

青少年の健やかな成長を見守る

九州地区少年補導センター等連絡協議会長崎研究大会

九州地区の少年補導センターなどの職員やその関係者が一堂に会し、協議や情報交換を行う研究大会が7月7日と8日の2日間、文化会館で開催されました。

大会には、九州各県から約400人が参加。『補導』『環境浄化』『連携』の3つをテーマに活発な意見が交わされました。

また、記念講演では、浄土寺住職の香林亮善さん（星鹿・大石）が『縁の妙』と題して、世の中にある無数の『縁』をテーマに、つながる心の大切さや素晴らしさを話しました。

香林さんのユーモアを交えた独特の語りには、参加者の皆さんは笑ったり、うなずいたりしながら熱心に話を聞いていました。



美しいメロディーを堪能

J-POWER ふれあいミニコンサート

電源開発株式会社（北村雅良社長）が社会貢献の一環として、全国各地の発電所がある地域の社会福祉施設や学校などで開催しているコンサートが7月5日、特別養護老人ホーム愛光園で開催されました。

松浦火力発電所の2号機が運転を開始して今年で15年目を迎えることを契機に、本市では、5年ぶりの開催となりました。

コンサート会場に集まった人々は、3人の演奏者が奏でる美しいフルートの音色に聞き入り、時には演奏に合わせて歌詞を口ずさんでコンサートを楽しみました。



全力でサーブ!

第28回会長杯卓球大会が7月8日、松浦スポーツセンターで開催されました。大会には約100人の市民が参加。男女それぞれに予選リーグを行った後、A・Bパートに分かれて白熱した試合が繰り広げられました。

上位の結果は次の通りです（敬称略）。

《男子Aパート》

- 【優勝】新見福也（志佐）
- 【準優勝】西田茂紀（志佐）
- 【第3位】岩本俊也（松浦高校）
- 【第3位】内田雅人（志佐中）

《男子Bパート》

- 【優勝】大村隼人（志佐中）
- 【準優勝】犬塚慎也（志佐中）
- 【第3位】木寺邦大（福島中）
- 【第3位】森 浩平（志佐中）



第28回会長杯卓球大会

《女子Aパート》

- 【優勝】堀之内佑美（志佐中）
- 【準優勝】村田奈穂子（御厨）
- 【第3位】中倉日登美（志佐）
- 【第3位】新見香織（志佐）

《女子Bパート》

- 【優勝】福松志織（志佐中）
- 【準優勝】田中優美（今福中）
- 【第3位】山本彩夏（調川中）
- 【第3位】松尾千雪（青島中）



【おわびと訂正】 市報まつら7月号に誤りがありましたので、おわびして訂正します。

○11頁「熱戦!! 中総体 陸上競技大会」

女子400mリレー低学の御厨中学校の順位 (誤) 2位 → (正) 1位

※この種目はタイムレース決勝で行われ、同タイムにより1位が福島中と御厨中の2校となっています。

高校生の視点から情報を発信

長崎県立松浦高等学校放送部が、第59回NHK杯全国高校放送コンテストにおいて、3年連続の本大会出場を決めました。



Interview 長崎県立松浦高等学校放送部

長崎県立松浦高等学校放送部は、ここ数年、県内の放送コンテストにおいて、常に上位の成績を取っている実力校。今年も、テレビドキュメント部門（作品名：竹の響く町）、ラジオドキュメント部門（作品名：未来への架橋）の2部門で全国大会の出場を決めました。

今回で3年連続の全国大会出場となる同部の活躍を支え、今大会の出場作品を制作した3年生の田中紀帆さん、太田千晶さん、竹下悠さん、夫津木愛美さんの4人に、部の紹介や全国大会出場を決めた感想などを聞きました。



Q 松浦高校放送部はどんな部？

A 校内での放送活動はもちろん、放送コンテストなどにも積極的に参加しています。

部員はみんな個性派ぞろいですが、正確な情報を伝える責任感と伝えるために創意工夫するおもしろさを感じながら、みんなで楽しく活動しています。

Q 全国大会出場を決めた感想は？

A 今回の大会は3年生の私たちにとって最後の大会となります。

今までの経験を出し切った結果、3年連続の全国大会出場を果たすことができ、大変嬉しく思っています。

また、作品の制作段階でお世話になった多くの人たちにも、少しは恩返しできたと思います。



◎ PROFILE

松浦高校放送部

現在、部員11人。毎日、2～3時間の部活動に励んでいます。
写真は全国大会に出場した（左から）田中さん、太田さん、竹下さん、夫津木さん。

Q 作品の紹介をお願いします。

A 「竹の響く町」は、星鹿パンブーオーケストラの裏方として楽団を支える、楽器製作やメンテナンスを担当する人物に密着した作品です。

「未来への架橋」は、今福神社の近くにある、跨線橋を取り巻く問題や、そこに関わる人たちの思いを取り上げた作品です。

Q 部活動を通して学んだことは？

A たくさんの情報から、テーマを絞り込み、要点を整理していくことが難しくいつも苦労します。

また、取材のため一般の企業などへ電話したり、訪問したりするので、礼儀や言葉遣いには気を付けています。いろんな人と接する機会も多く、コミュニケーション能力も向上したと思います。

後を継ぐ放送部のみんなには、九州大会や全国大会でこれまで以上の活躍が続けられるように頑張りたいと思います。

地域の皆さんの応援とご協力をよろしく願います。